

12月8日に思う

古河・総和平和の会 野口 徳

「東亜の敵米英を駆逐せよ」、大見出しと東条英機首相の写真 新聞の束を渡されたとき、一瞬・緊張と不安感が走る。いよいよ戦争だ。一体どうなるだろうと思いつきながら駆け出した。配達が終わわり夜明けの街角で流れる夜朝の街角に流れる軍艦マーチと大本営発表に高まりを覚えた。

高等科1年になって、月謝と小遣いは自分で稼ぐと始めた新聞配達であり、この様に興奮した気持ちを味わうのは始めてであった。12月8日の朝のことであった。

教室では戦争の話題で持ちきり、あの大本営発表の口調と戦果の報告に湧いていた。

朝礼では校長は威儀を正し「本日は宿敵米英に宣戦布告した血湧き肉踊る日、小国民として決意を固めよ！」高い調子の挨拶に強い感動で受けとめていた。

この日を機に学校は一挙に戦時体制となり編成も内容もさらに服装、動作、言葉つかいも軍隊調になっていった。

古河男子国民学校の教育は注視的となり高い評価を受けるようになった。翌年着任した校長は戦後の教育職の追放になっている。

高等科2年、進路を決するに海軍志願と迷うことなく答えたものである。それは国への奉公に最後の道であると信ずるようになっていたからである。その年の秋、任用証書を手にした新聞に写真入りで報じられ得意満面であった。学校では卒業を前に陸海軍や満蒙開拓青少年義勇軍の合格者のため壮行会を開き、激励すると共に後に続くことを奨めたのである。

そして、43年（昭和18年）7月、私の海軍への出発の日、古河駅頭は引率された在校生の見送りで埋めつくされていた。襷の日の丸の寄せ書きも皆学校で用意されていた。

12月8日付 朝日新聞県内版に掲載された私たちの「新聞意見広告」です。

多くの個人・団体の賛同を得て掲載しました。賛同者数は現在集中中です。個人、団体名を入れた別刷りは来年早々賛同者にお届けします。12/8は無謀な太平洋戦争を開始した日です。ご協力ありがとうございました。

意見広告

私たちは戦争する国はいやです

— 憲法九条は平和への道しるべ —

あなたも
安倍さんに
3つのNOを!

- 戦争放棄の九条をかえないで...
- アメリカの戦争に協力しないで...
- 西領基地をアメリカ軍に使用させないで...

日本国憲法第九条
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前条の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

この意見広告には多くの個人・団体の賛同を得て掲載されました。
○この意見・ご感想をお寄せください。
〒313-0912 水戸市見川5-127-281 TEL: FAX: 029-251-2806 e-mail: ibahel@amber.plala.or.jp

茨城県平和委員会

横須賀第2海兵団に集まった特別年少兵、それは皆14歳、私と同様に国のためにと意を決して来た者、日本中・軍国教育は進行していたのである。約1000名その中の1/4は2年間に若い命を散らしたのである。

いま教育基本法改悪が焦眉の問題になっている。国家が教育に介入し支配した苦い歴史の教訓に学ぶべきである。

今は亡きかつての恩師 下辺河大了先生の「僧は死者を弔うのが勤め、人を死なせて弔うのは道が違う」と繰り返し、戦争から帰った私たち中学から大学まで保証人として見守ってくれた。その言葉がいまも心に残っている。

絶対に繰り返してはならない戦争への道、その危険の迫っている時、現在の課題として深く考えるときであると思う。

新聞意見広告に寄せられた声

※日本国憲法九条を世界遺産にする。わかりやすく積極的に感じさせる。不戦の歴史が続くことを願っています。 水戸市個人賛同者。

（匿名で1万円と80円切手10枚同封）

※賛同と励ましの電話

新聞を見た。いいことなので頑張ってくれ

美和の朝日新聞読者

土浦市 小笠原さん

平和かわら版

No. 458

月3回 発行

2006. 12. 15

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒313-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail: ibahel@amber.plala.or.jp



この一年、ご協力、ご愛読ありがとうございました。来年もよろしく願います。

米軍再編と基地問題

-06 年日本平和大会報告-

伊達 郷右衛門

21回目となった。今年は岩国市で12月8～10日、「米軍再編」に伴う基地問題が中心テーマとなった。特に岩国市の米軍艦載機移転の是非を問う住民投票と引き続く市長選でのダブル勝利、反対に沖縄県知事選挙では新基地建設容認候補の勝利に象徴されるように一進一退のたたかいが全国的にすすむ中で開催された。

全国から1500名が参加し2つのシンポジウム、12の分科会と青年交流集會に分かれ話し合いがされた。

私は「世界の中の日米同盟か、世界の中の憲法9条か」のシンポに参加させてもらった。

パネラーは

- (1) 「刑事法学者と改憲」 (新谷一幸)
- (2) 「米世界戦略・在日米軍再編・集团的自衛権」 (吉岡吉典)
- (3) 「憲法9条の世界史的意義」 (二見伸吾)

の3人でそれぞれの持ち味を出し合っの報告で久しぶりに良い勉強になった。

(2) の紹介と感想を述べてみたい。①第1次大戦前には、列強は戦争の自由・軍事同盟の自由・軍拡の自由があった。同盟と同盟の大戦は空前の惨禍をもたらした。国際連盟が結成され「戦争の違法化」が規定された。②しかし、国際連盟から日独伊3国が脱退し再び「同盟と同盟」が対立し第2次世界大戦が起こった。その教訓から国際連盟は国際連盟の欠陥を補って侵略国には加盟国が集団で対応する「集团的安全保障機構」を創設した。③しかし戦後まもなく米ソ冷戦がはじまると国際連盟は機能低下に陥った。④現在の状況はブッシュのイラク戦争の失敗で再び国連の平和原則の立場の堅持が世界の潮流になりつつある・・・(以下、米軍基地再編などは略)

<感想>

①第1次大戦後成立した国際連盟の前文冒頭に「締約国は戦争に訴えざるの義務を受託し」とある。しかし、日独伊のファシズム3国の脱退で無力化し、第2次大戦に



突入した。連合軍は武力でファシズムを倒した。

②戦後、国際連合が生まれた。戦争に訴える国に対しては非軍事的制裁を実施しそれでもダメな時は最終的に軍事的制裁も宣言している。しかし、国連加盟国の中で唯一の軍事大国アメリカが国連決議を無視してイラク戦争を起した。

③武力に訴える唯一の軍事大国にどのような方法で制裁を加えることができるのか。21世紀初頭の人類の上にはこのように問題が提起されている。世界の人々はいまこそ「平和の知恵」を出し合っている。武力が幅をきかす国連でなく平和がものいう国連に。④ソ連が崩壊しアメリカが唯一の軍事大国になってから世界は変わりはじめた。一方で、ヨーロッパでアジアで中南米で新しい歴史の創造が始まった。戦争は「嫌だ」の国際世論が主流になった。親兄弟をなくし、戦争政策から経済発展・地域共同体へと動きはじめた。

他方、100万・200万の世界の人々がアメリカのイラク戦争反対に立ち上がったがアメリカのイラク戦争を阻止出来なかった。しかし、アメリカの手を縛り世界から貧困を無くす文明社会はもうそこまできている。平和勢力は2度とアメリカの勝手な戦争を許さないだろう。また、アメリカ自身も独自で戦争遂行する経済力もない。国際世論を無視できなくなった。明らかに戦争の20世紀から人類は学び前進してきている。

アメリカの戦争政策に追随している日本の政府がいかにもみすばらしい見えてくる。

12・8 行動

つくば 「12・8不戦のつどい」 並木公民館大会議室

演題 「教育は平和の砦！ 守ろう憲法・教育法」

長田 満江氏の講演 後質疑 37名参加

ひたちなか JR勝田駅前「赤紙」10名で配布と宣伝

水戸 JR水戸駅前にて赤紙配布と宣伝。10名参加

土浦 JR土浦駅前「赤紙」800枚配布18名参加

教基法改悪阻止中央総決起集會

つくばみらい平和の会 長野 淳子

「教育基本法改悪反対」「過度な競争を強いる教育はやめよう」というプラカードをもって日比谷野外音楽堂へ。デモの最後尾が出発するところだった。富山県の教職員組合の旗を持っている団体さんにくっついていくと、もう一人やはり個人参加のオバさんがいた。八王子からというこの方とずっとおしゃべりしながら国会へ、座り込み。

夜の集會のためにもう一度野外音楽堂へ向かおうとしていると、見知らぬ女性から「もう座り込みは終わってしまいましたか」と声をかけられた。インターネットで国会包囲を知って、お勤め帰りに駆けつけたとのこと。野外音楽堂での集會のことはそのネットには載っていなかったそうだが、よろこんで一緒に。「こんなに速く事が進むとは思わなかった」と彼女。私も唇を噛む。

つくばみらい平和の会より転載

お知らせ

「平和かわら版」12月25日付号は休み '07年1月5日付発行号と合併してNo.459号とし発行します。

'07年1月は、1/15 (No.460号) 1/25付 (No.461号) の都合3回発行になります。

かわら版編集部

事務局便

新聞意見広告が掲載され県に賛同や励ましの反響がくる。変り種は、読売新聞の広告社が事務所に来て「うちにも意見広告を出してください」と読売新聞といえ、社の方針で「憲法改正」を掲げ今まで、この種の広告は私たちと無縁でした。世のあまりの右傾化に、新聞の使命に気づいたのか??? 来年もよろしく。(事務局一同)